

Alenquer

について



アレンケール

もともとムーア人によって開かれたアレンケール（Alenquer）の村は、12世紀、ポルトガル初代国王アフォンソ・エンリケス（Afonso Henriques）によってキリスト教徒の支配下に入りました。これは、アレンケールからわずか35キロメートルのところに位置するリスボン（Lisboa）にむけて攻撃を進めていく途上のことでした。

アレンケールは、野外劇場を形作るかのような斜面に沿って家々が美しく並んだその様子から、「揺りかごの村」（vila-presépio）として広く知られています。

このアレンケールの地からは、ポルトガル史上重要な人物が輩出しました。例えば、喜望峰をまわった16世紀のポルトガル人航海者ペロ・デ・アレンケール（Pêro de Alenquer）や、偉大な人文学者として17世紀ポルトガル・ルネッサンス期に大きな役割を果たしたダミアン・デ・ゴイス（Damião de Góis）などです。

土地の最大の祭りは、毎年5月もしくは6月に行われるキリスト昇天市（Feira da Ascensão）（開催日は移動祝祭日により変わります）であり、これを目当てにこの地方を多くの人々が訪れています。